



「おやつは毎日保育所内のキッチンで手作りにしています」と話す、鈴木五郎園長

に保育施設を開散することを決定しました。「管理本部人事総務部長 荒神文彦氏」。

光あふれる施設と明確な保育理念。子どもと共に親も育てる。

「たいよう保育所」の建材や家具には、埼玉県の木材「西川材」が使用されている。テーブルの天板等には堅いヒノキが、子どもが直に座ることの多い床、ぶつかることもある壁にはやわらかい杉が使われ、家具はすべてオーダーメイドだ。南向きの大きな窓からは太陽の

光がさんさんと差し込み、床暖房が設置された室内は冬でもほかほかと暖かい。自己完結型の太陽光発電システムを採用し、停電時も安心だ。こうした子どもたちに優しい環境以外に、「たいよう保育所」の特徴はその明確な保育理念にある。

「たいよう保育所の保育理念はアドラー心理学をベースとし、子どもの自立支援を柱としています。子どもの自立を支援するには、子どもを弱い存在としてすぐになんでも手助けするのはなく、この子はここまでできるのか、ということに常に良く見て、なるべく手出し、口出しをしないようにギリギリのところで見守る



たいよう保育所

ことが必要です。そのため保育者の数も一般的な保育所よりも多く配置しています。子どもは親の影響を最も多く受けます。私たちは子育てと同時に、親育てを重視し、子どもの自立を促すためには家庭でのごような関わりを持ってほしいが、親御さんに伝える機会を多く持つようになっています。「保育所の運営を担当する株式会社子育て支援代表取締役 熊野英一氏」。

保育所を核として、社員全体のライフスタイル支援と地域貢献を。

「たいよう保育所」の利用者第一号は妻のいる男性社員だった。これには保育所開設を進めてきた荒神氏も驚いたと言う。

「我々も現在の女性社員の数や年齢層、これから入社するであろう女性社員数などを考慮して保育所のキャパシティなどを決定しました。しかし利用者の第一号は男性社員。これは正直、想定外でした（荒神氏）。

太陽ホールディングスは、これまでにも積極的な地域連携を行い、町とも深いつながりを築いてきた。「たいよう保育所」も開会に地元埼玉県の

木材を使い、社員の子ども以外に地域の子どもを預かることのできる地域枠を定員に設けている。

「保育所を核として、働く女性の子育て支援だけでなく、社員全体のライフスタイル支援、さらなる地域貢献を実現していくことができれば、と考えています」（荒神氏）。

保育所の子どもたちがハロウィンやクリスマス等で社内を訪れるイベントも多く企画している、と荒神氏。子どもたちの笑い声や足音が聞こえる社内は、今まで以上に社員同士のコミュニケーションも活発になり、活気があふれるのではないかと期待されている。



100坪以上の農地が、保育所に隣接。収容体数など今後、活用が予定されている。



利用者第一号は男性社員。子育て世代に新たな働き方を提言する、企業内保育施設。



社員の奥田大介さんと奥の初美ちゃん。「妻が仕事を再開することができました。私自身は子どもと過ごす時間が増えています」

国が目指す「女性活躍社会」。これを受け、事業所内に保育施設を設置する企業が増えてきた。企業内にある単なる託児所ではなく、特色ある保育施設も多い。昨年12月に太陽ホールディングスが開設した「たいよう保育所」をたずねた。

産休 育休後の女性復職率100%。さらなる支援の在り方を目指す。

埼玉県比企郡嵐山町に研究所と生産工場を持つ太陽ホールディングス株式会社。同社は12月に嵐山町に事業所内保育施設「たいよう保育所」を開設した。もともと太陽ホールディングスは子育て支援に力を入れており、過去10年間に産休、育休を取得した女性社員の復職率は100%と、す

「育休を取得する女性社員は1年以上職場を離れることとなります。復職した女性社員からは「1年間のブランクは大きい。第一線で働く知識とカンを取り戻すにはさらに1年がかかってしまう」という声をよく聞きました。これは本人にはもちろん、会社にとっても大きな損失です。働き方は人それぞれ。1〜2歳までは自分で子どもを育てたいという女性もいれば、自分のキャリアのために子育てと仕事を早い段階で両立したいと考える女性もいます。こうした女性社員の希望に応えるため、事業所内



太陽ホールディングス 荒神文彦氏



で子育てをしながら女性が働くことのできる環境が